

## あとがき

稲葉養護学校から稲葉特別支援学校に学校名が変わり5年が経とうとしています。ただ学校名が変わっただけでなく、従来の障害児教育から特別支援教育への転換は、本校のこれまでの特殊教育の考え方を大きく変化させるものでありました。文部科学省は、特別支援学校のセンター的機能として、6つの具体的内容を例示し、特別支援学校は地域のセンター的役割を担うことになりました。以下がその具体例です。

1. 小・中学校等の教員への支援
2. 特別支援教育等に関する相談・情報提供
3. 障害のある幼児・児童・生徒への指導・支援
4. 福祉・医療・労働の関係機関等との連携・調整
5. 小・中学校等の教員に対する研修協力
6. 障害のある幼児・児童・生徒への施設設備等の提供

今年度から特別支援教育コーディネーター（小・中学部）に任命され、センター的機能にもあるように、福祉・医療・労働の関係機関等と連携をして、特別支援教育等に関する情報提供を、コーディネーター通信を通じて行うことに取り組みました。特別支援教育のセンターとしてあるべき情報発信の姿を模索し、保護者の皆様に正しい情報と必要な情報をお伝えすることを第一に考えました。また、様々な関係機関の紹介によって、子ども達及び家族を中心とした包括的な支援の形を考え、支援につながる情報をできる限りお伝えしてきたつもりです。

コーディネーター通信第12号において、保護者の皆様にアンケートをお願いしました。配布したアンケートもお忙しい中、半数以上の方が回答してくださり、コーディネーター通信に対するニーズの高さが伺えました。また、その回答の結果も内容に関して全員から「良い」「まあ良い」という評価をいただき、ほとんどの方は「役に立っている」という結果に発行してよかったと胸をなで下ろしました。自由記述にも好意的なご意見が多く、その中に「このまま“チラシ”的に失われるのは惜しい」というご意見もいただきました。このようなご意見をいただいたことがきっかけとなり、今回こうして冊子として保護者の皆様にお配りさせていただくことになりました。

本校では、これまでに2008年度版「しえんマップ」、2010年度版「しえんマップ暫定版」を発行してきました。このコーディネーター通信もそれらと同様、活用していただければ嬉しく思います。

保護者の皆様、コーディネーター通信に関し多くのご意見をいただきありがとうございました。また、関係機関の皆様、コーディネーター通信発行に際し貴重な情報および掲載の許可をいただき誠にありがとうございました。

平成24年3月  
三重県立稲葉特別支援学校

特別支援教育コーディネーター 西井孝明